

2017年(平成29年)3月31日

テレビ放送、選手認知度、大学による支援環境などを調査研究 平成28年度「障害者スポーツ調査研究報告書」を発行

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)は、スポーツ文化・啓発事業における調査研究の平成28年度「障害者スポーツ・プロジェクト」の活動結果を報告書にまとめ、このたび発行しました。当財団は平成24年度から障害者スポーツを取り巻く社会的課題の調査研究に取り組んでいます。報告書は当財団ウェブサイトでも公開します。 <http://www.ymfs.jp/project/culture/survey/>

■報告書タイトル

「障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究報告書
-テレビ放送、選手認知度、大学による支援に注目して-」

■報告書の概要(全5章で構成)

【第1章】 障害者スポーツ・プロジェクトの活動経過と今後の課題

これまでの活動内容トピックス、また将来に向けた重要テーマに関して記述。

【第2章】 テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査

パラリンピック過去3大会(北京、ロンドン、リオ)の東京都における地上波テレビ放送分析。

【第3章】 パラリンピアンに対する社会的認知度調査

リオ2016パラリンピックで活躍したアスリートの認知度等に関するインターネット調査結果。

【第4章】 大学における障害者スポーツ現状インタビュー

障害学生や障害者スポーツの支援に先進的な取り組みを行っている2大学にインタビュー。

【第5章】 シンポジウム2016「障害者スポーツ選手発掘・育成システムのモデル構築に向けて」抄録集

平成27年度調査報告と障害者スポーツ関係者を招いたパネルディスカッションを紹介。

■障害者スポーツ・プロジェクト (※五十音順。平成29年3月31日現在)

リーダー：藤田紀昭(日本福祉大学 スポーツ科学部 教授)

委員：浅見俊雄(東京大学・日本体育大学 名誉教授/当財団 理事)

小淵和也(公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員)

河西正博(びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 専任講師)

齊藤まゆみ(筑波大学体育系 准教授)

中森邦男(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 強化部 部長)

／日本パラリンピック委員会 事務局長)

※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:尾鍋)

【参考資料】 ※報告書の主なトピックス

■ 第2章 『テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査』より抜粋

- ・パラリンピック3大会（北京2008、ロンドン2012、リオ2016）の放送時間を比較すると、リオ大会では北京大会との比較で約4倍と大きく増加した。
- ・「開催前（開会前の約1ヶ月間）」「開催中」「開催後（閉会後の約1ヶ月間）」ごとの放送時間を、リオ大会と北京大会とで比較するとリオ大会は「開催前」で約4倍、「開催中」で約2倍、「開催後」で約9.5倍の増加となった。
- ・北京大会とロンドン大会までの地上波テレビ放送は「NHK教育」が中心的であったが、リオ大会からは「NHK教育」から「NHK総合」へと放送の中心が変わった。
- ・合計20時間以上の放送を行うテレビ局は、北京大会とロンドン大会では「NHK総合」と「NHK教育」の2局だけであったが、リオ大会からは「NHK総合」「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」と5局に拡大した。
- ・番組カテゴリー別にみると「情報／ワイドショー」「ニュース／報道」「ドキュメンタリー」「バラエティー」での放送時間が北京大会とロンドン大会までと比較しリオ大会で急増した。
- ・番組内コーナー別にみると北京大会とロンドン大会では、ほとんど取り上げられなかった「政治・国際」の放送時間がリオ大会では急増した。この要因はリオ大会前に話題となったロシアのドーピング問題に関する報道であった。

■ 第3章 『パラリンピアンに対する社会的認知度調査』より抜粋

- ・最も知られている選手は「国枝慎吾」（34.0%）で、ついで「上地結衣」（14.8%）、「成田真由美」（10.5%）、「一ノ瀬メイ」（8.3%）、「辻沙絵」（6.1%）であった。
- ・実施競技の正答率が高かったのは「国枝慎吾（車いすテニス）」（79.2%）で、ついで「成田真由美（水泳）」（60.8%）、「上地結衣（車いすテニス）」（56.4%）、「道下美里（陸上競技）」（51.4%）、「別所キミエ（卓球）」（44.6%）であった。
- ・リオ大会の観戦形態は「テレビのニュース番組で観た」（46.8%）で最も多く、ついで「テレビの中継番組を観た」（30.3%）、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」（13.0%）であった。
- ・テレビ観戦した競技は「水泳」（41.1%）が最も多く、ついで「車いすテニス」（40.1%）、「陸上競技」（32.6%）であった。
- ・リオ大会を観戦した感想は「アスリートとして非常に優れていると感じた」（69.5%）が最も多く、ついで「障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた」（65.0%）、「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」（61.7%）であった。
- ・「2020年東京パラリンピックを直接観戦したい」は35.2%であった。